

審査員講評

表彰式における審査員の講評を誌面の都合上要約してご紹介します。
(環66号より抜粋)

六角鬼丈

東京藝術大学教授



提案部門はひらめきと明解なメッセージを強く発信している案が受賞しました。金賞の降矢案はガラスの積層壁が作り出す透過性をテーマとし、単純だが、幻想性に富み、不確定な陰影の変化が興味を誘った。また、構造的可能性が評価された。銀賞の萩原案のガラスブロックの仮囲いは、建設と破壊を氷結させる都市の風景そのものに思える。対照的に、銅賞の小倉案は閉鎖的な蔵に目をつけて、少量の開口を散りばめ、間の空間に時を超えるイメージを発光させているのが魅力だった。

作品例部門は、プロフェッショナルな設計が行き届き、建物の隅々まできめ細かく仕立てられている。金賞の曾根・福田・小川案「aiinaいわて県民情報交流センター」は、ガラスブロックの固体が空中に浮き上がり、バランスもよく効果的で、素材の魅力を十分に引き出している。銀賞の勝山案「鏡野中学校」は、一見何の変哲も無い空間に思えるが、ファイアライトにより透き通る空間が実現され、むしろ教室が消えて吹き抜けと外部が直接繋がっていく新鮮な空間を得ている。銅賞の南平案「Grand marche」は全体が照明器具と呼べる美しい建築で、ディテールも繊細だが、空間としての効果は薄い。その他にも、魅力的な作品が多くあり、興味をそそられた。

岡本 宏

清水建設
常務執行役員



プレゼンテーションにこめられたメッセージを読み取る作業は、そこに審査員のイメージネーションが加えられ、時には内容を誤って解釈したり、提案のレベルに至らないことが生じる。これがまたガラスブロックに映し出された虚像と実像の違いを想起させ、実に興味深いプロセスでもある。

提案部門金賞の降矢案はガラスブロックを二重、三重に重ね合わせることで構造壁体としての可能性を窺がわせる。銀賞の萩原案は、工事現場の仮囲いの内側での出来事がガラスブロックに映し出され、道行く人の無限の想像力に働きかける。銅賞の小倉案は蔵に挿入された光による現代的な表情で空間に軽快さを与えた。それぞれがガラスブロックの魅力を見事に映し出した秀作として評価された。

作品例部門では、成果への言い訳が効かないだけに、各素材に対する使い手の鋭い観察力が生かされ、金賞を受賞した曾根・福田・小川案の「aiina」は図書館でのガラスブロックの持つ空間性、銀賞の勝山案はファイアライトの機能性、銅賞の南平案はグラソアを使った素材の装飾性など、どれもが厳しさと確かな技術に裏打ちされ見事な作品に昇華されている。

妹島和世

慶應義塾大学教授



ガラスブロックは難しい材料で、何度か自分自身も使おうと試みて、実現できていない。大変きれいな室内を作るが、なにか既視感がつきまとい、そしてきれいな過ぎるインテリアを作る気がする。作品例部門の「チタンコンテナ」はディテールが繊細に作られて建具として展開されているのは新しい試み、「aiina」は、大きな建物のファサードの中に小さなリズムを持ち込むことに成功し、ガラスブロックの使い方として秀逸だと思う。

提案部門は多少リアルティが問題であるが、だからこそ新しい提案がなされている。組石造の性格を生かしてプライバシーの強弱に対して層を増やしていくのは面白いアイデアである。作られるインテリアの微妙な変化を見てみたい。また、ガラスブロックの仮囲いで示されたイメージはとても魅力的であった。ただ実際のテクスチャーは、少し違う気がする。現実には関連商品も含めて、少し和風なスペースや、古い民家などに使われる方がびびったりするような気がする。そういう意味では、微妙にテクスチャーが変わると、ガラスブロックにはもっと異なるイメージを作り出すことができる可能性を感じさせられる。中学校のファイアライトの使い方はさりげなく、作られたスペースを魅力的にしていると思った。

大工信隆

日本電気硝子
執行役員 建材事業本部長



第13回空間デザイン・コンペティションを無事に迎えることができ、主催者の一員として厚く御礼申し上げます。今年の提案部門では、「建築空間におけるガラスブロックの魅力を問う」という課題であり、ガラスブロックの新しいあり方の提案を期待しました。280点というたくさんの応募を頂き、ガラスブロックのこれからの可能性を再確認しました。また作品例部門でも、173点というたくさんの応募を頂き感謝しております。

まず「提案部門」ですが、ガラスブロックの製品・機能・工法・用途の各分野にわたり、斬新で興味深い作品を数多くご提案頂きました。金賞を受賞された降矢案では、ガラスブロックを重ね積みするということ、これまでにない発想で空間づくりを提案されており、これからのガラスブロックの新しい展開の可能性を見い出しました。また「作品例部門」は、既存製品の魅力を引き出して頂いた作品が多く激戦となりました。金賞を受賞された曾根・福田・小川氏の「aiina」は、300×300mmの大型ガラスブロックのパネル工法を採用頂き、断熱性と採光性というガラスブロックの特長を生かされた空間が印象的でした。